第7章 国際貢献・社会貢献

7-1 チャレンジセンター

達成目標

チャレンジセンターの活動を通し、地域社会との連携活動を展開する。連携活動件数 を増やす。

目 標

各キャンパスで、多様なカテゴリーのプロジェクトを一定数以上維持し、社会貢献活動 を通じて、学生が社会で生き抜く力を向上させる。

現状説明

チャレンジプロジェクトとユニークプロジェクトを募集し、その活動を支援する。学生 が積極的にプロジェクトを企画し、また活動に参加できるよう、募集説明会等を開催する ことで目標を達成する。

目標達成度の評価方法としては、20 件以上のチャレンジプロジェクトとユニークプロジェクトの数を維持することを目標達成の目安とする。

2011 年度は各キャンパスで、18 件のチャレンジプロジェクトと、17 件のユニークプロジェクト、1 件の特別プロジェクトが立ち上がり、社会と連携した多様な活動が展開され、その成果は、中間・最終報告会で発表されるとともに、『2011 年度活動報告書』にも収録された。

2012 年度は、各キャンパスで17件のチャレンジプロジェクトと、26件のユニークプロジェクトが立ち上がり、多様な活動が展開されるとともに、活動の詳細はHPにて順次掲載した。その成果は、前年と同様に2012年10月の中間報告会、2013年2月の最終報告会(予定)で発表されるとともに、3月に発行予定の『2012年度活動報告書』にも収録される。さらに、活動を活発にするために、センター推進室のプロジェクト活動担当者を中心に募集方法、募集説明会、募集パンフレット等の改善案が提案され、推進室会議で検討した。プロジェクト活動に関する様々な事項は、チャレンジセンター実行委員会、運営委員会で承認、決定される。決定事項はセンターミーティングで全教職員に周知される。また、2013年度のプロジェクト募集に向けて説明会を開催し、HP、ポスター等で広報を行った。

プロジェクト活動担当教職員を中心に、センター全教職員が何らかの形で取り組みに参加している。

点検・評価

く行動計画内容の実現度>S

2012年度は、計43件のプロジェクトが各キャンパスで活動を展開し、参加した学生は、 社会とのつながりの中で様々な経験を積むことができた。また、2013年度のプロジェクト 募集活動も順調に行われたことから、実現度は「S」と自己評価できる。

<成果と認められる事項>

ライトパワープロジェクトのソーラーカーチームがサソール・ソーラーカーチャレンジ・サウス・アフリカ 2012 で優勝し、第1回大会から3連覇を達成した。また、これによってソーラーカーの主要な世界大会で5連覇を記録した。

プロジェクトの数が目標数 20 件を大幅に超過し、2011 年度は 36 件、2012 年度は 43 件となった。多くのプロジェクトが、セミナー、イベント、地域貢献、ボランティア等多種多様な活動を展開し、湘南校舎と各校舎の近隣住民をはじめ多数の方々に感動と元気を与えることができた。

く改善すべき事項>

特になし。

今後の改善・改革に向けた方策

<長所の維持・伸長方法>

プロジェクト件数の維持とより質の高い活動が展開できるよう、センター推進室のプロジェクト活動担当者を中心に教職協働でコーディネーター研修、リーダー研修の充実を図る。また、プロジェクト活動の募集に関わる事項を常に点検し、改訂していく。

く改善方策>

特になし。

7-2 課程資格教育センター

達成目標

地域社会との連携活動を展開する。連携活動件数を増やす。

目標

以下の計画は社会貢献の計画ではあるが、2010年度までに掲げたようなチャレンジセンターとの直接の連携関係は生じていないため 2011年度より教育学・教職研究室の独自目標となっている。ただし、以下に示す本目標の行動計画は、連携先の要望の内容、また連携可能な教員、学生の存在に依存しているため、あらかじめ数値目標を設定できるようなものではないと考えた。そのため、実現度の評価は当該年度の連携活動の多様性と規模に関して前年度を一応の基準とした比較による評価を行うようにしている。

行動計画内容(a):近隣自治体の教育委員会、あるいは小学校、中学校、高等学校等から各種の学習ボランティア派遣や、生徒指導や学校運営に関する研修会参加等の要望が増加している。教育学・教職研究室では、要請があった場合、積極的に協力する。

行動計画内容(b): 県市区町村の教育委員会等から依頼があった場合、各種委員会委員を 引き受けてきた。今後も、要請があった場合は積極的に引き受けて、活動する。

現状説明

行動計画内容(a) 具体的取り組み 教育学・教職研究室担当。

2011 年度は神奈川県立秦野曽屋高校より学習支援ボランティアの募集があり、教育学、教職研究室の仲介のもとに学生3名が応募し活動を行っている。その他に、平塚市、秦野市、厚木市の教育委員会が企画する学習ボランティアに協力し、募集、派遣と事前の指導を行った。また、近隣自治体より発達障害等をテーマとした講演依頼が9件あり、それらを行った。

2012年度の学習支援ボランティアについては、学生20数名が応募し活動を行っている。 これらは神奈川秦野市及び平塚市の教育委員会あるいは学校長より教育学・教職研究室の 教員に依頼があり、各所属教員が募集、派遣と事前の指導を行ったものである。

また、2012年度は神奈川県内を中心として東京都、千葉県の各市から発達障害、不登校、いじめに関する講演、あるいは市民大学などの研修会講師の依頼が延べ26回あり、受諾した。

行動計画内容(b) 具体的取り組み 教育学・教職研究室担当。

2011 年度は教育学研究室から1名が伊勢原市教育委員会の点検評価委員委員長となっていた。

2012 年度は神奈川県教育委員会(2件)、平塚市教育委員会、伊勢原市教育委員会、日本女性学習財団からの委員委嘱が計5件あり受諾した。また、2012年度は6地域の教育委員会から教員採用選考試験大学推薦者の募集があった。それに対し募集科目に応じた教職課程設置学科・課程から学生を推薦してもらい、教育学、教職研究室を中心として面接による特別選考を行った。

点検・評価

<行動計画内容(a)の実現度>S

行動計画に従い、要請に対し積極的に対応し学習ボランティアの学生数と講演件数が 2011年度の3名と9件を大幅に上回り増加していることから「S」評価とした。

<行動計画内容(b)の実現度>A

行動計画に従い、要請に対し積極的に対応し 11 年度の1件に対し委嘱受諾件数が徐々に増大していること、また特別選考については3名(11年度は2名)を推薦し、全員が最終合格となったことから「A」評価とした。

<成果と認められる事項>

(a)、(b) ともに、依頼があった件に対しては依頼内容を吟味し、専門分野に応じて 多くの依頼に応えている。

く改善すべき事項>

特になし。

今後の改善・改革に向けた方策

<長所の維持・伸長方法>

今後、外部よりの依頼件数は次第に増加すると考えられるため、依頼内容に最適の講演者をもって対応してゆく。

く改善方策>

特になし。

7-3 国際戦略本部

達成目標

研究者及び学生の国際貢献活動を活性化させるために、単に交換留学にとどまらない 国際交流活動の件数を増やす。

目 標

政府の外郭団体や、民間団体の主催する交流行事に積極的に関与する。これらの活動をとおして、東海大学のプレゼンスを高める。

現状説明

国際連携課が中心となり以下のプログラムに参画し、教員並びに学生を派遣した。

①日中学生交流フォーラム

中国側参加大学:清華大学、北京大学 日本側参加大学:学習院大学、東海大学

日本セッション:8月29日学習院大学、8月30日東海大学湘南校舎

中国側セッション:11月2日北京大学、清華大学

本学から学生15名が参加。中国と日本の諸問題を討議。

②北東アジア学生フォーラム

2012年10月31日~11月4日

ロシアの極東連邦総合大学を東海大学学生 15 名が訪問し、諸問題を討議。

*上記①②については、国際戦略本部国際教育課がプログラム全般の調整を担当。

③日米学生会議

2012年7月20日~8月20日

数多くの日米の民間交流事業の中でひときわ伝統と権威を誇る企画。本学学生3名が参加。

*日米学生会議については、国際戦略本部国際教育課が学生のリクルート並びに事前研修を実施。

その他、以下の国際交流活動を実施。

- ④モンクット王ラカバン工科大学にソーラーカーを寄贈
- ⑤ モンクット王ラカバン工科大学学長への名誉学位の授与

*上記④⑤については、国際戦略本部国際連携課がプログラム全般の調整を担当。

次年度以降はミッション・シアリング・シートの行動計画に位置づけるが、国外施設に対して以下の施策を行った。

⑥海外連絡事務所の機能強化

東海大学アジアオフイスをバンコク中心部に移設し、東南アジア全体をカバーする体制 を構築する計画を策定。

点検・評価

<行動計画内容の実現度>A

<成果と認められる事項>

派遣した学生にとっても良い経験になっただけでなく、それぞれイベントを企画、あるいは援助した中国日本友好協会文化交流部、国際教育振興会、極東連邦総合大学、モンクット王ラカバン工科大学に対して、東海大学の存在感を高めることが出来た。

く改善すべき事項>

日露学生会議等の申し込んだものの参加できなかった企画等もあり、達成目標に定める 国際交流活動の件数を増やすためには情報の収集も含め、主催団体に対する交渉方法が必要となる。

今後の改善・改革に向けた方策

<長所の維持・伸長方法>

東海大学の有する国際的なネットワークを利用し、交換留学に留まらない国際交流活動 を着実に推進していきたい。

く改善方策>

各国政府機関、協定大学との連携を深め、学生にとって有益な国際交流活動を推進のために、情報収集並びに連絡調整を行いたい。

また、基本目標にある「海外の教育施設の役割確立」については、行動計画「在学施設の再編と機能強化を行う。」として 2013 年度の目標設定に加えることとする。

7-4 研究支援・知的財産本部

達成目標

研究者及び学生の国際貢献活動を活性化させるために、単に交換留学にとどまらない 国際交流活動の件数を増やす。

目標

国際産官学連携事業を推進・支援するために、東海大学との連携協定機関と、情報交換の場を設ける。

現状説明

2008 年度に締結した横浜企業経営支援財団 (IDEC) とタイ国モンクット王ラカバン工科大学 (KMITL) との国際連携協定に基づき、本学国際戦略本部の協力を得て、本学が受け入れる KMITL 学生の横浜市内企業におけるインターンシッププログラムを 2009 年度、2010年度と実施してきた。2011年度においては、東日本大震災や福島原発事故の影響により中止となった。2012年度は、IDEC と KMITL との国際産官学連携事業の見直しを図り、国際貢献活動の活性化に資するべく検討を行った。

点検・評価

< 行動計画内容の実現度> C

KMITL の組織変更(学長、国際産学連携担当副学長の変更)により、3機関での連携事業の見直し検討の会合を調整することができなかった。

<成果と認められる事項>

特になし。

く改善すべき事項>

特になし。

今後の改善・改革に向けた方策

<長所の維持・伸長方法>

東海大学における国際連携活動の推進を図るために、50年以上の支援・連携活動を行っている KMITL との連携事業等は、本学として継続して行くべきであるが、国際連携部門と調整を行い、目標として再検討する。

<改善方策>

国際貢献・社会貢献に資する活動を行う中で、国際産官学連携活動はその活動の一部であるが、タイ国モンクット王ラカバン工科大学等との国際産官学連携活動の目標は、今後は本学の国際戦略・国際連携部門の目標に基づき活動するものとしたい。

7-5 事務部

達成目標

大学の施設・設備の社会への開放や社会との共同利用を推進する。

目標

「事務部〕

授業、課外活動以外の期間・時間帯で、活用可能な大学の施設・設備等を、地域をはじめとする社会全般に積極的に公開する。

「湘南総務課〕

休日及び休講期間中に、各種資格試験、予備校模試、イベント等に積極的に学内施設を 貸出す。

[清水船舶運航課]

望星丸の一般公開(春1回秋1回)及び、各市教育委員会航海、調査研究用船航海等により、一般社会の海洋教育活動をサポートする。

現状説明

[事務部総括]

湘南校舎では、地方自治体、高等学校、社会性の高い各種団体等に、授業及び課外活動に支障の無い範囲で教室・運動施設を貸し出した。清水校舎では、望星丸の外部用船が積極的に働きかけられている。

[湘南総務課]

公共性・社会性の高い学外諸機関・団体からの、教室・体育施設等の貸し出し要請に、可能な限り応じている。大学周辺住民からの野球場・テニスコート等の貸借要望には、原則的に応じていない。

[清水船舶運航課]

海洋実習時に名古屋港で、海洋学部 50 周年記念として横浜港で、一般公開を行なった (名古屋港 5 月 13 日 830 名、横浜港 7 月 16 日 1,379 名)。また、海洋学部のオープンキャンパス時にオープンシップを行った (10 月 28 日)。

外部用船航海は、国からの海洋調査用船航海(海上地磁気観測 ベヨネーズ海域)と、 文部科学省学術振興会航海(高校生対象)(8月7日駿河湾61名)を実施した。秦野市教 育委員会の依頼による中学生対象の航海も予定していたが、台風のため中止になった。ま た、停泊中には、静岡市内の幼稚園が望星丸に乗船した。

点検・評価

く行動計画内容の実現度>A

[事務部総括]

湘南校舎の教室・運動施設の貸し出し実績は、延べ 59 件 102 日であった。望星丸は今年度新たに国からの海洋調査航海を受注し、その他の用船を含めて、順調かつ安全な航海を実施した。

[湘南総務課]

教室は、センター入試、学会、平塚市、秦野市、神奈川県図書館、理容師・美容師試験センター、消防試験研修センター、情報処理試験(商工会議所)等 14 件に 24 日間貸し出した。体育施設は、平塚市、秦野市、東京都、藤沢翔洋高校、岸根高校、岩槻北高校、鶴巻小学校、大根小学校、みずほ幼稚園、秦野つるまき子ども園、大根幼稚園、湘南柔道協会、市原体操クラブ、神奈川リトルリーグ連盟、秦野ラグビースクール等 45 件に 78 日間貸し出した。なお、上記により、613,905 円の施設貸し出し収入があった。実績としては、前年度を若干下回る結果となった。

[清水船舶運航課]

外部用船航海は順調な航海をおこなった。

<成果と認められる事項>

[事務部総括]

特になし(個別課題については各校舎・部署毎の記載による)。

[湘南総務課]

特になし。

[清水船舶運航課]

国からの海洋調査航海を新たに行った。学術振興会航海に参加した高校生の中で、数名が東海大学に入学した。

く改善すべき事項>

[事務部]

特になし(個別課題については各校舎・部署毎の記載による)。

[湘南総務課]

特になし。

〔清水船舶運航課〕

更なる大学の広報活動に協力する。

今後の改善・改革に向けた方策

<長所の維持・伸長方法>

〔事務部総括〕

特になし (個別課題については各校舎・部署毎の記載による)。

〔湘南総務課〕

特になし。

〔清水船舶運航課〕

安全航海の維持、及び更なる観測航海の密度を高める。

く改善方策>

[事務部総括]

特になし(個別課題については各校舎・部署毎の記載による)。

[湘南総務課]

特になし。

〔清水船舶運航課〕

今後も広報活動に力を入れ、新たなる用船確保に努める。